養育者の子育て目標志向性と育児行動に関する原因帰属との関連性（２）

○田村隆宏¹・浜崎隆司¹・加藤孝士²・森野美央³・岡本かおり⁴・朴信永⁵・吉田和樹¹・安藤ときわ¹・三井理愛¹
（¹鳴門教育大学大学院・²東京福祉保育専門学校・³比治山大学・⁴洗足こども短期大学・⁵宇部フロンティア大学）

キーワード：子育て，目標志向性，原因帰属

The relationship between goal orientations of childcare and causal attribution of behavior in childcare on parents

Takahiro TAMURA¹, Takashi HAMAZAKI¹, Takashi KATO², Mio MORINO³, Kaori OKAMOTO⁴,
Shinyoung PARK⁵, Kazuki YOSHIDA¹, Tokiwa ANDOU¹, Rie MITSUI¹

(¹Graduate School of Naruto University of Education, ²Tokyo College of Child & Social Welfare,

³Hijiyama University, ⁴Senzoku Junior College for Kindergarden Teachers, ⁵Ube Frontier University)

Key words: behavior in childcare, goal orientations of childcare, causal attribution,

目 的

先の研究では、子育ての目標志向性が“子育てが上手な親だと認められたい”といった意識にかかわる「遂行接近目標志向性」と、“だめな親だと言われたいよう頑張りたい”といった意識にかかわる「遂行回避目標志向性」，“子育ては自分の成長につながる”といった意識にかかわる「学習目標志向性」という３つの因子で構成されていることが明らかにされた。養育者にはこれらの各因子にかかわる意識が強い者と、あまり強くない者が存在し、ここに養育者の子育て目標志向性の違いが現れると考えられる。子育て支援の有効なあり方について考えた場合、養育者が持つこれらの子育て目標志向性の違いは、求められる支援のあり方を異なったものにするであろう。そこで、養育者が求める子育て支援のあり方を探る指標として本研究では、育児行動に関する原因帰属に注目する。原因帰属とは行動の結果の原因を何に求めるかということであり、育児行動に関しては、育児で成功したことや失敗したことの原因が何にあったかについての認識ということになる。先の研究では、例えば、子育てで成功、失敗したことが自分の努力や養育能力といった内的な要因に帰属すると考える「統制可能性」、周囲からの支援の有無といった外的な要因に帰属すると考える「周囲からの援助・支援」、運の良し悪しなどに帰属すると考える「偶発的事項」の３つが子育て行動の原因帰属を構成している因子として妥当であることが確かめられている。これらの原因帰属の違いによって養育者が求める子育て支援のあり方が反映するものと考えられる。

そこで、本研究では養育者の子育て目標志向性と育児行動にかかわる原意帰属との関連性について検討した。

方 法

調査対象 子育て支援の必要性を感じると考えられる育児中の養育者を対象とした。具体的には 1 歳半・3 歳児健診に参加した保護者や保育所・幼稚園の保護者 310 人を対象とした。**子育て目標志向性と子育て行動に関する原因帰属との関連性の調査** まず養育者の子育て目標志向性の違いを抽出するために、「遂行接近目標志向性（６項目）」「遂行回避目標志向性（３項目）」「学習目標志向性（３項目）」の３つの因子に関わる項目の評定値（５段階尺度）の合計値が高い群と低い群に分類した。次に各群の養育者の子育て行動にかかわる原因帰属を調査するために、子育てで成功及び失敗したことの原因帰属について判断させる項目（五段階尺度：「統制可能性（２項目）」「周囲からの援助・支援（２項目）」「偶発的事項（３項目）」に評定させ、各群の３つの因子にかかわる項目の評定値の合計の平均を算出した。

結果と考察

Table 1，2 は目標志向性の各因子の高群と低群における子育て行動の成功及び失敗経験に関する原因帰属の平均評定値と高群と低群の評定値の違いを検討するために行った t 検定

の結果を示したものである。主な結果としては、遂行接近目標志向性の高い者は低い者より育児の成功体験の原因は自らの努力や能力に関わる統制可能性に帰属しやすく、失敗経験の原因は周囲からの支援・援助や偶発的事項に帰属しやすかった。一方、遂行回避目標志向性の高い者は低い者より成功経験の原因は運がよかったなどの偶発的事項に帰属しやすく、失敗体験については自らの努力や能力に関わる統制可能性に帰属しやすいことが明らかになった。これらの結果から、子育て目標志向性の違いによって、求められる子育て支援のあり方が異なることが示唆された。

Table 1．目標志向性の各因子の高群と低群における子育て行動成功体験の原因帰属の平均評定値

	高 群	低 群	検定
遂行接近目標志向性 [n=69]		[n=60]	
統制可能性	6.43 (1.74)	> 5.10 (1.85)	***
周囲の協力・支援	6.36 (2.15)	6.47 (2.47)	
偶発的事項	9.20 (2.27)	> 8.22 (2.27)	*
遂行回避目標志向性 [n=63]		[n=64]	
統制可能性	5.59 (1.96)	5.70 (1.87)	
周囲の協力・支援	6.48 (2.37)	6.56 (2.33)	
偶発的事項	9.41 (2.47)	> 8.55 (1.98)	*
学習目標志向性 [n=107]		[n=84]	
統制可能性	5.98 (1.77)	> 5.44 (1.63)	*
周囲の協力・支援	6.48 (2.37)	6.25 (2.19)	
偶発的事項	8.79 (2.39)	8.63 (2.29)	

* p<.05 *** p<.001

Table 2．目標志向性の各因子の高群と低群における子育て行動失敗体験の原因帰属の平均評定値

	高 群	低 群	検定
遂行接近目標志向性 [n=67]		[n=64]	
統制可能性	7.16 (1.61)	7.23 (1.83)	
周囲の協力・支援	4.94 (1.89)	> 4.17 (1.76)	*
偶発的事項	8.56 (2.45)	> 7.22 (2.34)	**
遂行回避目標志向性 [n=70]		[n=62]	
統制可能性	7.73 (1.50)	> 6.92 (1.65)	**
周囲の協力・支援	4.70 (2.00)	4.23 (1.59)	
偶発的事項	8.60 (2.53)	> 7.16 (2.22)	***
学習目標志向性 [n=101]		[n=93]	
統制可能性	7.27 (1.71)	7.22 (1.69)	
周囲の協力・支援	4.16 (1.85)	4.57 (1.75)	
偶発的事項	7.60 (2.40)	8.08 (2.19)	

* p<.05 ** p<.01 *** p<.001